

# 平成27年度 佐渡市総合学習部 活動報告

部長 山本 博文

## 1 「佐渡学」の推進

佐渡市では「佐渡市学校教育基本構想」を定め、「佐渡学」を推進している。「佐渡学」では、「佐渡の自然，文化，歴史を学ぶことで，郷土を愛し，夢と誇りをもつ子どもの育成」を目指している。

そこで，今年度の佐渡市総合学習部では，世界農業遺産に登録された佐渡の農業（米作り）とトキとの共生をテーマに授業研究会を実施した。

## 2 総合学習部研修会（授業研究会）

- (1) 授業者 佐渡市立沢根小学校 教諭 本間 雅美 様
- (2) 指導者 佐渡市立新穂小学校 校長 香遠 正浩 様
- (3) 単元名 「米作りから学ぶトキと共生する島」

### ① 授業の実際

本時は，これまでの総合学習で調べてきた佐渡の米作りやトキについて，年明けの餅つき大会の場で発表するため，そのスライドの内容を考えるとというものであった。課題は「より良い発表にするにはトキが害鳥であるというスライドをどうしたらよいか」であった。各自課題について考えをまとめており，それを全員が発表してから討論がスタートした。

最初は意見が出なかったが次第に質疑応答が始まり，トキが害鳥であるスライドは入れるというように落ち着いた。

その後，そのスライドを含め，どのような順番で並べるかを話し合った。口々に意見が出されたが，なかなか意見が集約されなかった。時間もなかったため，授業者がある程度道筋を決め，スライドを担当する係の児童が検討することになって授業を終えた。

### ② 協議会で出された主な意見

- ・課題が難しかったのではないかと。「よりよい発表」「どうしたらよいか」では漠然としていてつかみどころがない。内容をもっと絞るべき。
- ・「トキが害鳥かどうか」はトキの本質を突く大事な課題。もっとじっくり話し合せて考えさせたかった。互いに我慢をしなければならないのが共生。

### ③ 指導

- ・課題を設定し，課題意識をもつ主体はあくまで子どもであるべき。教師が設定せず，子どもが設定するように投げかけるのが本来の姿である。
- ・学習や気づきが，自己の生き方を考えることに結び付けなければならない。しかし，農業単元では態度に表しようがなく難しい。本単元でいえば「佐渡の米を食べる！」ということに落ち着くのではないかと。



## 3 課題

今年度，数年ぶりに授業研究会を実施できた。しかし，所属部員に管理職や総合を担当していない部員も多く，来年度以降，授業研究という形での研修会は難しいことが予想される。「佐渡学」の研修を深められる研修の形を模索しなければならない。